

## 第 48 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

<b>ゼミ名</b>	中川ゼミⅡ	<b>チーム名</b>	中川ゼミ教育班
<b>タイトル</b>	大学進学要因の実証分析～大学進学率向上を目指して～		
<b>テーマ群</b>	c) 公共経済		
<b>メンバー</b>			
<b>研究計画内容</b>	<p>少子化により学生世代の数が減少しつつある中、大学の数は増え続けており、「大学全入の時代」と呼ばれている時代であるが、大学への進学率は長年、50%程で安定している現状に注目し、大学の進学率を上げるための政策提言を考える。第1章の現状分析では、まず、大学に進学するのか、進学を選ばなかった者は、なぜ大学進学を選ばなかったのかを明らかにする。すると、学生自身の学力と経済的な要因が多く占めており、大学に進学したくてもできない現状があることが分かった。進学率が近年、伸びていない現状と合わせて、所得と学費の推移に注目すると、所得は下降しているのに対し、学費は年々増加していることが分かった。そんな現状を打破するべく、現在、政府はどのような取り組みを行っているかを紹介し、現在行われている政策の問題点などを考える。第2章では、日本の大学進学率が伸びていない現状の原因と、その解決策について分析された研究を先行研究とし、紹介している。第3章では、先行研究より進学行動は、経済的な要因が大きいことが示されていることに加え、現状分析から学力も進学行動に大きく影響していることから、島(1999)の分析を参考に進学率と収益率、学力と家計所得の関係について分析を行い、進学に影響を与える要因について明らかにする。第4章では、前章の分析を基に、進学率の向上を促す政策を提言する。そして、我々がビジョンに掲げるよりよい人材育成を目指すため何をすべきなのかを考える。</p>		